

2026年1月29日

# 警備ロボットメーカー・シェア No.1<sup>※1</sup> の SEQSENSE 株式会社の株式を取得しグループ化 清掃ロボットに次ぐ事業成長の柱へ

アイリスグループは、2026年1月29日付で、SEQSENSE 株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：中村 壮一郎、以下 SEQSENSE）の株式を取得し、同社をグループ化しました。これにより当グループは警備ロボット事業に新規参入し、清掃ロボットに続く第二の柱として位置づけ、さらなる事業成長を図ります。

当グループは日本における労働力不足を解決するため、2020年にロボティクス事業に参入し、サービスロボットの累計導入社数は7,000社を超え<sup>※2</sup>、業務用清掃ロボットにおけるベンダーシェアは2023年から2年連続で1位<sup>※3</sup>を達成しています。また2025年10月には、ソフトウェアとハードウェアの双方を完全内製したDX清掃ロボット「JILBY（ジルビー）」を発表し、ロボットメーカー・ベンダーとしての自立を進めています。さらなる事業成長に向けて、清掃にとどまらない労働力不足の解決に向けた幅広いサービスの展開を目指しています。

日本国内の警備業界における市場規模は約3.5兆円<sup>※4</sup>と巨大な一方、その業務は「24時間365日」体制での運用が必須で、夜間業務や危険業務などの過酷な労働環境から人手が慢性的に不足しています。さらに、全警備員のうち47%が60歳以上<sup>※4</sup>と高齢化が深刻化しており、安定的な労働力の確保と安全な警備体制の構築が急務です。

SEQSENSEは2016年の創業以来、自律移動技術とクラウドシステムを中心とした警備ロボットの開発と社会実装に取り組んでいる国内有数のロボットメーカーで、2024年には警備ロボットにおけるメーカー・シェアNo.1<sup>※1</sup>を獲得しています。同社の自律移動型警備ロボット「SQ-2（エスキューツー）」は、独自の3次元センサーを搭載し、警備対象物件の詳細な3次元マッピングや、移動歩行者をはじめとする動体の発見、環境変化の検出を行えるほか、クラウドシステムとの連携により警備拠点から遠隔で巡回などの警備業務を行えます。こうした点が評価され「SQ-2」は官公庁や公共施設に加え、大規模な空港・商業施設などに導入されています。

今回、SEQSENSEの株式を取得することで、当グループは警備ロボット事業に新規参入します。これにより、SEQSENSEの「開発力」と当グループの強みである「企画・調達・製造・販売力」を掛け合わせて、警備ロボットをスピーディに開発・製造・提供できることに加えて、コスト競争力も強化できます。グループ化の第一弾として、「SQ-2」を当グループの全国販売網を通じて展開することで、販路拡大を図ります。また、当グループの調達・製造力を活かして「SQ-2」をリニューアルするほか、拡大を通じて警備業界における多様なニーズを収集し、それをベースに新たな警備ロボットを開発していきます。

当グループは警備ロボットの普及を通じて、警備業界における慢性的な労働力不足や警備の安全確保といった社会課題の解決に貢献します。

※1：富士経済「2025年版 ワールドワイドロボット関連市場の現状と将来展望 サービスロボット編」（2024年・日本市場）参照。

※2：2020年1月～2025年12月までのサービスロボットの累計（アイリス電工株式会社での販売分、及びトライアルを含む）。

※3：富士経済「2024年版・2025年版 自律走行ロボットポテンシャル分析」参照。

※4：警察庁生活安全局生活安全企画課「令和6年における警備業の概況」参照。

# NEWS RELEASE



## ■株式取得日※5

株式取得日：2026年1月29日

## ■SEQSENSE 株式会社 概要

社名：SEQSENSE 株式会社

設立日：2016年10月3日

グループ化：2026年1月29日

本社所在地：東京都中央区明石町6-4 ニチレイ明石町ビル5F

代表者：代表取締役社長 中村 壮一郎（なかむら そういちろう）

事業内容：自律移動型ロボット及びその関連製品の開発

## ■アイリスオーヤマ株式会社 代表取締役社長 大山 晃弘 コメント

今回のSEQSENSE社のグループ参画は、当社がロボットメーカーとして次のステージに進む大きな転換点だと考えています。清掃ロボットに続き、警備ロボットという社会的ニーズの大きい領域に参入することで、ロボティクス事業のスケールを一気に加速させます。特にSEQSENSE社の優れた自律移動技術とクラウドシステムは世界に通用するポテンシャルを持っており、当社の量産力や販売チャネルと掛け合わせることで、警備業界における新たなスタンダードを創っていきたいと考えます。アイリスグループはこれからも技術革新とスピードを武器に、社会インフラを支える新たなロボットソリューションを提供してまいります。

## ■SEQSENSE 株式会社 代表取締役社長 中村 壮一郎 コメント

この度、アイリスグループの一員として新たなスタートを切ることができ、大変心強く、大きな期待を抱いています。当社は創業以来、「現場で使われ続けるサービスロボット」を追求し、自律移動技術とクラウドを中心とした警備ロボットの開発と社会実装に取り組み、実績を重ねてまいりました。私たちは人口減少が進むなかでも、ロボット技術を通じて社会の基盤を確実に支え続ける存在でありたいと考えています。今回、量産力と全国規模の営業基盤を有するアイリスグループに参画することで、当社の開発力をより速く、より大きなスケールで社会に届けられる体制が整いました。今後は警備ロボットを起点に、さらなる領域拡張を見据えた開発を進めてまいります。これまで支えていただいたすべての関係者の皆様に心より感謝申し上げるとともに、当社の「第2幕」を、全力で切り拓いてまいります。

※5：株式取得総額は非公開です。